

ふれ愛観音堂

ふれ愛観音堂は、触ってもいいようにデザインされた仏像を祀っています。この仏像は、慈悲の菩薩である観音を表現しており、目の不自由な人や多様な人々が参加できるように作られました。文字通りの「触れること」と概念的な「つながり」の両方を意味する「ふれあい」のコンセプトを体現して、この像はふれ愛観音と名付けられました。

寺院の仏像のほとんどは遠くから見ることしかできないため、目の不自由な人が仏様を認識して祈りを捧げることは困難になっています。ふれ愛観音像はこの問題を解決するため 1991 年に作られました。参拝者は、この仏像に触れ、表情豊かな顔の特徴や流れるような袈裟のひだ、そしてその他の精緻な形を自らの指で感じるという身体的行為を通じて、菩薩と通じ合うことができます。

この仏像は子供たちにも手が届くよう、十分に低い位置に安置されており、お堂の内壁には日本語の点字で仏像について説明が書かれています。誰でも自由にふれ愛観音に手で触れることができ、触ることにより仏像と通じ合うことができます。